

## 秀 賞



### 私がしていくこと

宮城県古川黎明中学校

三年 小見山 仁

あなたは「自分」のことを一言で表現できるだろうか。自分の長所やチャージングポイントがある人ならば表現できるだろう。しかし、私には長所やチャージングポイントがなく、自分を一言で言い表すことができなかった。

そんな自信のない自分が嫌いだった。でも、それを心のどこかで変えたいと思っていた。しかし、自分を変えるとはどういうことなのか。そしてどうすれば自分を変えられるのか。私には分からなかった。機械音痴の私には、ネットで探すことがとても難しかったので、この悩みを最も身近にいる両親に打ち明けてみた。すると両親から、

「自分を変えるのは行動。何か行動にうつせば自然と心も変わるんじゃないかな。」

という言葉をもらった。私は「なるほど」と納得し、一体どのように行動を変えるべきか考えた。

そんなことを考え続けて五日間。そして六日目、私はとうとう見つけたのだ。それは「少し変わった検定を受けること」である。今まで、私は親に言われて漢字検定や数学検定などのオーソドックスな検定しか取っていなかった。そこで、ちょっと変わった検定を自分で探し、資格を取ることで何かを変え

ることができるはずだと考えた。あらゆる検定を調べた結果、「和食検定」という検定を受けることにした。今、外国では和食は「ヘルシーでデリシャスなご飯」として知られている。近年グローバル化が進んでおり、外国人と話す機会が多くなりつつある。もしそんな時に「実は私、和食検定を持っているんです。」と言えたなら、相手の印象に残りやすく話題も増えるだろうと思いい、私はこの検定に決めた。

そこから私は死ぬ気で勉強した。合格率が三十パーセント弱のこの検定は、相当努力しないと受からないと思ったからだ。自由時間や隙間時間を全てこの勉強に費やし、夜遅くまで勉強に打ちこんだ。途中で何度も嫌になりやめたいと思ったが、「これを成し遂げれば必ず何かが変わる」と信じ、自分を変えるために気持ち奮い立たせた。こうして半年が経ち、ついに受検日がやってきた。東京への送り迎えをしてくれた母への感謝を胸に私は自分の力の限りを出し尽くした。

合格発表の日、私はドキドキしながらホームページを開いた。合格していた。私は手を叩いて喜んだ。

しばらくして私は、この半年で何が変わったのかを改めて考えた。その時は、分からなかったが、数日過ごしていくうちにだんだんと変化が分かるようになっていった。そのうちの一つが「人の自分を見る目」だ。「和食検定ってどんなことを学ぶの?」「面白いね」などと声をかけてくれるようになり、検定前には話さなかった人とも話すようになった。話題のバラエティーが増えたのである。そしてもう一つが、「自信」である。半年前までは「どこにでもいそうな私に価値なんてない」と思っていたのが「努力すれば何でもできるんだ」と思うようになっていった。自信がもてるようになる気が余剰が出て、イライラしたり「どうせ俺なんて」というネガティ

ブなことを考えないようになっていった。

今なら私は自分を一言で表現することができる。「成長」である。私はこの経験から、成長の重要性和成長することの楽しさを学んだ。これまで、成長は「退屈でつまらなく、人を縛り付けるもの」と考えていた。しかしそれは間違っていた。成長とは「とても楽しく興味深く、そして人を自由にしてくれるもの」だった。

私は今、「マナー・プロトコール検定」を取るために勉強中である。「検定」は「世界は私が思っている以上に広いこと」を教えてくれた。「もっと世界を知りたい」と私に思わせてくれた。どこへ進むべきか迷っていた私を明るく照らし、助けてくれた。

新しいことに挑戦するのはとても勇気のいることだ。そのうえとても面倒くさい。努力することを面倒くさいと考え、やりたがらない人や、挑戦したいと思っても「やるが多くて時間が無い」と自分で思い込み、なかなか一歩踏み出せない人も多いのではないだろうか。私もそうだったので、よく気持ちが分かる。しかし、やってみる価値は大いにあるだろう。例え失敗したとしても、挑戦の先には必ず成長がある。成長の先には希望がある。そして、希望の先には素晴らしい未来が待っている。私はそう思う。

成長するということは人生を楽しむことだ。この楽しさはゲームやテレビを観ることとはまた違う別の楽しさだ。何かにチャレンジし、今の自分を変える。今の自分にちょっと刺激を与える。きつと違う世界が見えてくるはず。だから私はこれからも成長し続けたい。